

はじめに

平素より地域の感染症対策に御協力いただきありがとうございます。
医療機関向け情報には **医** を、一般施設向け情報には **全** をつけています。
原則毎月第2・4木曜日に配信し、新たな通知や感染症情報等がある場合、随時臨時号を配信いたします。
全数報告：第39週～40週(9/22～10/5) 定点報告：第36～40週(9/1～10/5)

全数報告疾患情報

医

—— 市川保健所管内で報告のあった疾患のみ掲載しています

※定点報告疾患については、第36週～第40週のグラフを別添しております

2類感染症	39~40週	累計(年)
結核	2	96

3類感染症	39~40週	累計(年)
腸管出血性大腸菌感染症	1	9

4類感染症	39~40週	累計(年)
A型肝炎	1	1

5類感染症	39~40週	累計(年)
百日咳	3	151
梅毒	1	25
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	8

発生動向トピックス

TOPICS 1

インフルエンザが流行シーズン入りしました!

医 全

2025年第38週(9月15日から21日)における定点当たり報告数は1.15となり、流行開始の目安とされている1.00を上回ったため、流行シーズン入りしました。

2025年第40週における定点当たり報告数は2.36です(図1)。市川管内の報告数は2.89(人)でした(図2)。

また、第40週に千葉県内で報告のあった391例のうち、A型380例(97.2%)、B型7例(1.8%)であり、A型が多い状況です。

2025年第36週には、管内小学校において2025/26シーズン(2025年第36週から2026年第35週までの期間)初となるインフルエンザ(インフルエンザ様疾患を含む)の集団発生による学級閉鎖の報告があり、その後も県内の複数の施設で学級閉鎖が見られています。

図1 千葉県の流行シーズン別インフルエンザ定点当たり報告数

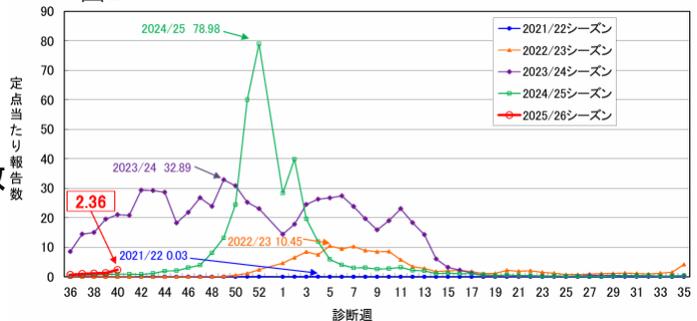
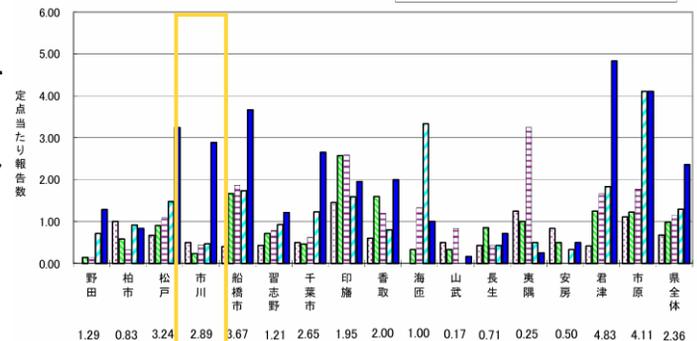


図2 インフルエンザ



市川保健所管内インフルエンザ発生状況（人）

	A型	B型	A+B型	AorB型※	臨床診断
報告数	35	1	0	0	0

※非鑑別キット
 （医療機関からの型報告なく不明な 24 例を除く）

2025年第39週から第40週における定
 点各医療機関からのインフルエンザ報告数
 をまとめた表です

感
 染
 症
 解
 説

イン
 フ
 ル
 エ
 ン
 ザ

症
 状

38度以上の発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛・関節痛等の症状が急速に現れる
 小児は稀に急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している人は肺炎を伴う等、
 重症化することがある
 潜伏期間は通常1～3日程度

感
 染
 経
 路

- 飛沫感染
 感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、
 病原体が含まれた小さな水滴（飛沫）が口から飛び、
 これを近くににいる人が吸い込むことで感染する
- 接触感染
 ウイルスが付着した物（おもちゃやドアノブ等）に
 触れた手で、口や鼻、目を触ったりすることで
 病原体が体内に侵入し感染する

出
 席
 止
 期
 間

発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼
 児にあつては、3日）を経過するまで
 （学校保健安全法より）
 ※ウイルス排出期間（人にうつす可能性がある期
 間）は一般的に「症状が出る1日前から、発症後5
 ～7日程度まで」とされています

感
 染
 対
 策

- こまめな手洗いや咳エチケット
- 適度な湿度の保持
- 十分な休養とバランスの取れた栄養摂取
- 人混みや繁華街への外出を控える
- 室内ではこまめに換気をする
- 予防接種
 （今年度についても開始しており接種可能です！）

感染症対策へのご協力をお願いします

咳エチケット

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、
 「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

ほかの人にうつさないために

- くしゃみや咳が出るときは、飛沫にウイルスを含んでいるかもし
 れません。次のような咳エチケットを心がけましょう。
- ・マスクを着用します。
- ・ティッシュなどで鼻と口を覆います。
- ・とっさの時は袖や着の内側で覆います。
- ・周囲の人からなるべく離れます。

3つの咳エチケット



正しいマスクの着用



今後さらなるインフルエンザ患者報告数の増加が見込まれるため、手洗いや咳エチ
 ケットに努め、家庭、保育所、幼稚園、学校、社会福祉施設等において、感染予防策
 の徹底をお願いいたします。

【参考】千葉県感染症情報センター
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202540-2influenza.pdf>
 【参考】厚生労働省：インフルエンザQ&A
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunwa/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/QA2024.html
 【参考】JHS「インフルエンザ」
<https://id-info.jhs.go.jp/diseases/a/infuenza/>

TOPICS 2

RSウイルス感染症が増加傾向です



RSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）は、乳幼児を中心に感染が広がる呼
 吸器系のウイルスで、例年秋から冬にかけて
 流行が見られます。感染力が高く、飛沫感染
 や接触感染により人から人へ広がりやすいの
 が特徴です。図1、図2より市川保健所管内で
 も、RSウイルス感染症患者数が増加傾向にあ
 ることがわかります。

乳幼児では家庭内や病院内での感染、高齢者では高齢者福祉施
 設での集団発生が問題となることがあります。特に生後6か月未
 満の赤ちゃんや、基礎疾患を持つ子ども、高齢者では重症化する
 リスクがあるため、適切な予防策と早期の対応が求められます。
 手洗いや換気、加湿などの基本的な予防策を徹底し、感染拡大を
 防ぎましょう！

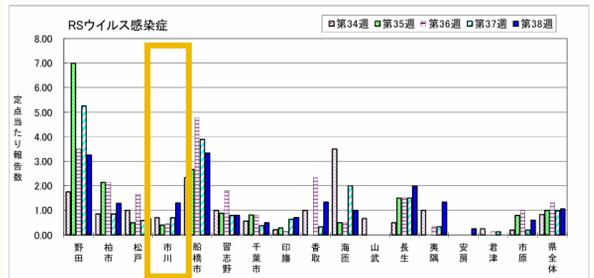


図1：5週間の県内定点当たり報告数の推移（保健所別）

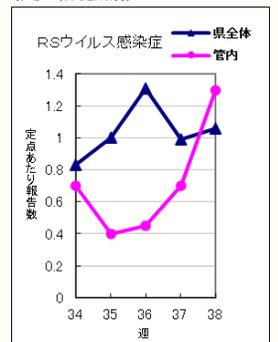


図2：5週間の市川保健所管内の感染発生動向

—RSウイルスとは

RSウイルスは、主に乳幼児で流行する呼吸器感染症で、生後2歳までにほぼ全ての子どもが感染するといわれています。初めて感染した乳幼児では、症状が悪化しやすく、細気管支炎や肺炎を引き起こすことがあります。

また、高齢者や基礎疾患のある方も重症化しやすいため、家族全員での感染予防が重要です。さらに、一度感染しても免疫が完全に形成されるわけではないため、再感染する場合があります。

RSウイルスは寒く乾燥した環境で活動しやすく、気温が下がる秋から冬にかけて流行がピークになります。また、この時期は暖房器具の使用により室内が乾燥しやすく、感染リスクが高まる要因となります。

感染症解説

RSウイルス

症状

- 年齢によって様々な症状がある
- 軽症の場合（主に健康な幼児や成人）
 - ・鼻水 ・咳 ・のどの痛み ・微熱
 - 重症の場合（特に乳児や高齢者）
 - ・高熱 ・呼吸困難 ・喘鳴（ゼーゼーとした音）
 - ・食欲不振 ・無呼吸発作（特に新生児）

感染経路

- 飛沫感染
感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、病原体が含まれた小さな水滴（飛沫）が口から飛び、これを近くにいる人が吸い込むことで感染する
- 接触感染
ウイルスが付着した物（おもちゃやドアノブ等）に触れた手で、口や鼻、目を触ったりすることで病原体が体内に侵入し感染する

感染対策

- 高頻度接触面をこまめに消毒する
- 流水・石鹸による手洗いやアルコール製剤による手指衛生
- マスクができる年齢の子どもや大人はマスクを着用する

【参考】厚労省「RSウイルス感染症」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/rsv.html

【参考】東京都感染症情報センター「RSウイルス感染症」

<https://idsc.tmph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/rs-virus/>

【参考】こども家庭庁「保育所における感染症対策ガイドライン」

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/d557529d/20230401_policies_hoiku_15.pdf

TOPICS 2

乳幼児施設向け感染症対策研修会を開催します！

医 全

10月15日に標記研修会を開催いたします。これからの季節はインフルエンザや感染性胃腸炎が流行する時期です。流行前に、集団感染を予防するための基礎知識を一緒に振り返りましょう！

令和7年度 乳幼児施設等における感染症対策研修会のお知らせ

日 時：令和7年10月15日（水）午後1時15分～午後2時30分
対 象：管内幼稚園含む乳幼児施設の管理者および職員、市担当職員
開催方法：Zoom
申込方法：QRコードまたはURLから申込をお願いいたします

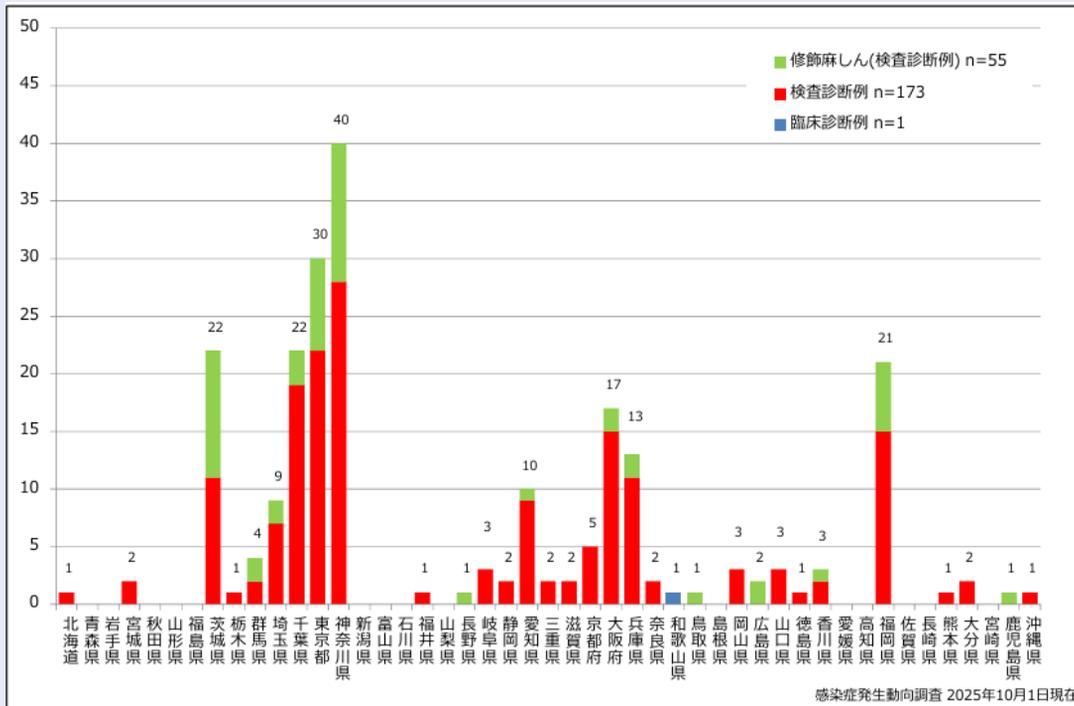


https://apply.e-tumo.jp/pref-chiba-u/offer/offerList_detail?tempSeq=49362

申込〆切：10月10日（金）



千葉県では、2025年第40週に届出はなく、2025年の累計は22例でした。全国では、2025年第39週に和歌山県で1例の届出があり、2025年の累計は229例となりました。



【参考】千葉県感染症情報センター「千葉県の麻疹発生状況(2025年40週)」
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202540measles.pdf>
 【参考】JIHS「麻疹 感染症発生動向調査2025年第39週」
<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/meas25-39.pdf>

新型コロナウイルス感染症

—— 定点医療機関による感染者数の報告は減少傾向です

第40週の千葉県全体の定点当たり報告数は、5.17(人)でした(図1)。報告数が多かった地域は、印旛/長生(7.14)、香取/夷隅/市原(7.00)保健所管内でした。

市川保健所管内の報告数は、前週から横ばいで推移し、4.44(人)となっています(図2)。

管内の医療機関や高齢者施設においてコロナの集団発生報告数が増加しています。

高齢者や基礎疾患をお持ちの方は重症化リスクが高いため、一人ひとりが感染防止に努めることで、施設全体の安全を守ることにつながります。感染症対策を再確認し、全員で取り組んでいきましょう。

図1 千葉県の年別新型コロナウイルス感染症定点当たり報告数

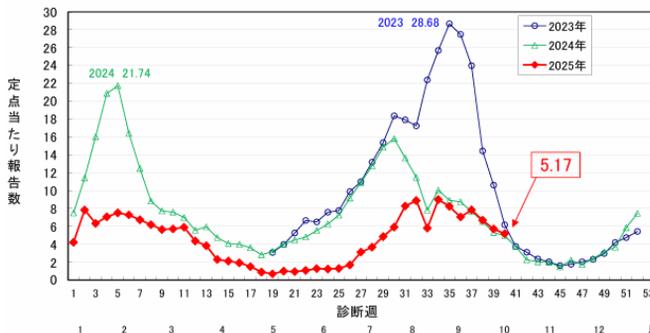
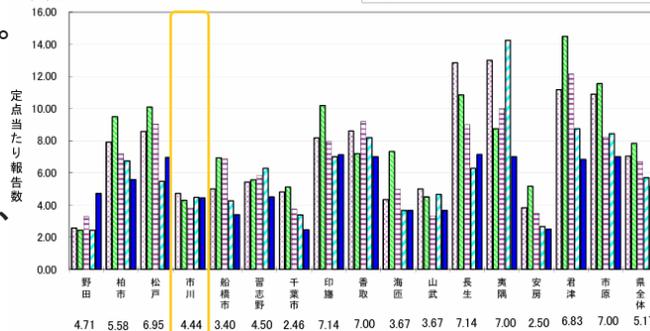


図2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)



感染対策

- ①手洗い・手指衛生
- ②マスクの着用・咳エチケット
- ③室内の換気
- ④室内の湿度の保持
- ⑤人込みを避ける
- ⑥ワクチン接種

【参考】千葉県感染症情報センター
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202540covid19.pdf>

【参考】千葉県:新型コロナウイルス感染症について
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/kansenshou/ncov/covid19-chiba-index.html>

お知らせ

医 全

- ・【医療機関の皆様へ】1~4類感染症及び5類感染症の一部(麻しん・風しん・侵襲性髄膜炎菌感染症)の発生届を御提出いただく際は、発生届の御提出と併せて保健所までお電話をお願いいたします。

※閉庁日にお電話いただいた場合、「千葉県保健所夜間休日受付センター」の連絡先のアナウンスが流れますので、当該センターに御連絡をお願いいたします。



◀◀感染症法に基づく 医師の届出ハンドブック

https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/pamphlet_A4.pdf

- ・登録アドレスの廃止、変更等は下記アドレスまで御連絡をお願いします。
- ・いちうら感染症情報は、毎月第2・4木曜日を配信予定としていますが、事情により配信が遅れる場合があることを御了承ください。
- ・いちうら感染症情報の内容は主に公的機関の情報を基に作成し、できる限り最新で正確な情報発信に努めておりますが、各登録機関の責任において御利用ください。
- ・また、メールの安全性についても千葉県の情報セキュリティ対策により安全性の確保を図っておりますが、各登録機関におかれましてもセキュリティ等の注意をお願いいたします。

配信元

千葉県市川健康福祉センター
(市川保健所)
いちうら感染症情報
ichiurainf@pref.chiba.lg.jp